

平成19年度地域管理経営計画等有識者懇談会の概要について

1. 日 時 平成20年3月10日(月) 13:30～16:30
2. 場 所 近畿中国森林管理局大会議室
3. 議 題 (1) 地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画(案)について
(2) 上記変更計画(案)について
(3) その他
4. 概 要

事務局より資料に基づき説明を行い、地域管理経営計画と施業実施計画の案については妥当との意見であったことから、近畿中国森林管理局においては、3月中に計画書の公表を行うこととなった。また、本日出された意見については、今後の国有林の管理経営に活用していくこととなった。

委員からの主な意見

(計画案について)

- ・間伐が主体の計画となっているが、将来にわたり木材が安定的に供給されるためには、一定量の新植を行い、齢級の偏りを解消していくことも必要である。
- ・間伐によって、下層植生や広葉樹の導入を図るのであれば、導入する樹木の種類や数についての目標値を持ち、それに応じた間伐方法を選択していくことも必要である。
- ・機能類型をみると毎年、資源の循環利用林の割合が減少しており、環境重視にシフトしているのがわかるが、国有林が民間林業の一つのモデルとなるような林業経営を進めていくことも必要である。

(世界文化遺産貢献の森林(京都市内の国有林)の拡充について)

- ・古都京都に相応しい彩りのある森林景観づくりについては、いつの時代の森林の姿を目標とするか、広く市民の意見を聞きながら進めていくことも必要である。
- ・アカマツなどの景観は、人が森を利用することで維持されていた。計画としてはわかるが、実際にやるのは難しいということを念頭において進めることも必要である。
- ・文化財修復用材として使用するためには、年輪の幅など細かな規格を満たさないといけないことから、関係者との情報交換を密にして、保育を進めることも必要である。
- ・金閣寺の再建でも明らかなように日本での文化財修復用材の供給体制は機能していると思うが、修復に当たっては、国産材を利用していることがわかるように工夫することも必要である。

(全体について)

- ・中国産の餃子問題で明らかになったように、消費者としては、国産材が如何に安定的に供給されるかに関心がある。国産材の生産、流通、消費のサイクルが円滑に流れる仕組みを造り、自給率を高めていくことも必要である。
- ・民有林との連携については、流域連携だけでなく、低コスト林業の実現や花粉発生源対策の推進など具体的な形で連携を進めていくことも必要である。
- ・地球温暖化という追い風が吹いている中、木の情報や森の情報などのプロモーションを積極的にやることも必要である。
- ・一般の者には、国有林が生物多様性の確保や森林吸収源対策に積極的に取り組んでいることが知られていない。やっていることをしっかりと説明し、理解してもらえるように努めることも必要である。
- ・カワウやシカなどの野生動物が森林に与える影響については、国有林の日常業務として、把握に努めていくことも必要である。

資料一覧 [下の各項目をクリックすると資料をご覧いただけます。](#)

- 1 表紙、議事次第、委員名簿、局出席者名簿
- 2 座席表
- 3 地域管理経営計画等有識者懇談会設置要領
- 4 平成19年度策定地域管理経営計画等説明資料
- 5 パワーポイント説明資料
- 6 平成19年度近畿中国森林管理局重点取組事項について

問合せ先

近畿中国森林管理局計画部計画課

担当：まえだ前田、うえだ植田

IP 050-3160-6739